

第12期学術分科会における審議状況・第13期の検討事項について

資料4
科学技術・学術審議会
学術分科会（第95回）
令和7年4月16日



文部科学省

第12期学術分科会における主な審議内容・開催実績

- 研究力強化に向けた取組や科学技術・イノベーション政策の在り方等の学術の振興方策について、調査審議を実施。
- 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けて、学術の振興に関する重要事項について調査審議を行い、令和6年8月23日付で「**第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた学術分科会としての意見**」をとりまとめ。

開催日	主な議題
(第88回) 令和5年3月28日	<ul style="list-style-type: none">● 分科会長及び分科会長代理の選出等について● 第11期学術分科会での議論について
(第89回) 令和5年9月12日	<ul style="list-style-type: none">● 最近の科学技術・学術の動向について● 大学研究力強化に向けた取組について
(第90回) 令和6年2月2日	<ul style="list-style-type: none">● 令和5年度補正予算および令和6年度予算案の報告● 各部会における審議状況報告及び各部会の審議経過を踏まえ俯瞰的な検討を進める論点について
(第91回) 令和6年6月26日	<ul style="list-style-type: none">● 学術の振興に係る論点について
(第92回) 令和6年7月31日	<ul style="list-style-type: none">● 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた学術分科会としての意見（案）について
(第93回) 令和6年11月14日	<ul style="list-style-type: none">● 学術の振興に係る論点について● 令和7年度概算要求について
(第94回) 令和7年1月29日	<ul style="list-style-type: none">● 令和6年度補正予算および令和7年度予算案について● 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた検討について

引き続き検討すべき論点/今後の方向性等

- 「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた学術分科会としての意見」に記載された方向性の具体化に向けた取組や、社会経済情勢や科学技術・イノベーションを取り巻く状況の変化を踏まえた学術の振興方策について、各部会及び関係審議会等と必要な連携を図りながら、引き続き審議を行う。

第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた学術分科会としての意見【ポイント】

I 学術研究の意義・現代的役割

- 多様な学術研究・基礎研究を安定的・継続的に実施することにより、「知」を蓄積し、将来の「知」を生み出せる人を育て、社会の価値を創造することは、社会が持続的に発展し、また、未知の変化に対応する、いわば「基礎体力」をつけることである。さらに、これが時を得て、人間や社会の在り方と密接不可分の価値発見的な視座を取り込み、花開くときに、イノベーションという果実をもたらす原動力になる。
- 我が国の研究力の相対的・長期的な低下傾向が指摘される中、我が国が世界をリードしていくための基礎体力を取り戻し、永続的に伸ばしていくためには、今後の科学技術・イノベーション政策を進めていくに当たっても、引き続き学術研究・基礎研究を政策の重要な柱として位置付け、大学等を中心に行われている多様な研究を安定的・継続的に推進していくことが重要である。

II 多様で質の高い研究成果を創出する「知」の基盤の構築

(1) 研究者の知的好奇心に根差した独創的な研究の強力な後押し

- 基盤的経費の十分な確保や、多様な財源の確保等により、大学や研究者の活動の基盤となる柔軟性の高い経費を充実させる。
- 科研費について、研究種目体系の見直しや国際性評価の導入、「国際・若手支援強化枠」の新設等を通じた質的充実・量的拡大を図る。
- 創発的研究支援事業の定常化等により、若手研究者が自由に挑戦的・融合的な多様な研究に安定的に取り組める環境を整備する。

(3) 日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成

- 国際卓越研究大学制度やJ-PEAKSを契機とした意欲ある研究大学の改革の灯を絶やさず、各大学のビジョンの実現に向けた改革を継続的・安定的に後押し、個々の大学の特色・強みを最大化する。
- 共同利用・共同研究体制の機能強化を図ることで、全国に広く点在する研究者のポテンシャルを引き出し、我が国の研究の厚みを大きくする。（大学共同利用機関等の機能強化、中規模研究設備の整備、新しい学際研究ネットワークの形成）

- 基盤的経費等から定常的に措置される
教員一人当たりの研究開発費は減少傾向
- 科研費のニーズの拡大とそれに伴う充足率の低下※基盤C等
- 円安・物価高騰等による実質配分額の目減り



重層的な取組を通じて
研究力の低下傾向を反転



- 世界最高水準の研究大学の実現が必要
- 上位に続く大学の層が薄い
- 中小規模の大学も含めた全国の研究者のポテンシャルを引き出す学術研究基盤が不十分

- 予算の制約等により研究設備・機器が老朽化・陳腐化
- 研究者が研究する時間を確保できていない



- 欧米に比べて適切な分業が進んでおらず、研究者の業務負担が重い
- 全国的に「広がっていない」「やりきれない」「優れた取組も存在する」

(2) 大学等における研究環境の改善・充実、マネジメント改革

- コアファシリティ化を我が国全体で更に効率的・効果的に推進し、若手も含めた意欲ある研究者の研究設備・機器へのアクセスを確保する。
- 先行調査等も踏まえつつ、研究時間の減少の要因を調査・分析し、そのうえで、「対応策の例」とともに分かりやすく発信し、所属する研究者の研究時間の確保に各大学等が取り組むことを国としても後押しする。また、各FAIにおいて、申請書・報告書の合理化・簡素化や研究費申請・審査の効率化・負担軽減等の取組を進める。
- 研究開発マネジメント人材・技術職員がその能力を最大限発揮し、研究者との相乗効果を生み出すために、各大学等の経営層が、そうした人材の重要性を理解したうえで適切な分業体制の構築や適正な評価・処遇を行い、政府においても、ガイドラインの策定やOJT研修の創設等によりそうした取組を加速させる。
- 好事例の可視化により、優れた取組を分野を超えて全国的に波及させる。各大学等の取組の意義・有用性を社会に対して分かりやすく説得力のある形で発信する。

研究環境基盤部会

第12期における主な審議内容

- 学術研究の進展や国際的な研究動向に応じた、全国的観点から推進すべき学術研究基盤の整備について、「中規模研究設備の整備等に関する論点整理（R5.6.27）」をとりまとめた。また、大学共同利用機関を中心とした共同利用・共同研究体制の機能強化について検討を行い、「大学共同利用機関を中心とした共同利用・共同研究体制の機能強化に向けた意見の概要（R7.1.20）」をとりまとめた。
- 共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の評価及び新規認定に係る審議を行い、結果を公表した。
- 学術研究の大型プロジェクトについて、各プロジェクトの適切な進捗管理を行った。また、「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想-ロードマップ2023-（R5.12.22）」を策定した。
- 国立大学法人運営費交付金（学術研究関係）について、配分等に係る審議を行った。

引き続き検討すべき論点又は今後の方向性等

- 大学共同利用機関の検証を実施するとともに、引き続き大学共同利用機関及び共同利用・共同研究拠点を中核とした共同利用・共同研究体制の機能強化方策等について審議を行う。

研究費部会

第12期における主な審議内容

- 科学研究費助成事業（科研費）において、研究種目の整理・統合、国際性・若手研究者支援の強化、研究種目の基金化の推進を含む研究費の効用の最大化、基盤研究の助成の在り方等について、調査・審議を実施した。

引き続き検討すべき論点又は今後の方向性等

- 「基盤研究種目群」等の研究種目の在り方や、更なる質的・量的充実に向けた審議を行う。

第12期学術分科会各部会等における審議状況・第13期の検討事項について②

人文学・社会科学特別委員会

第12期における主な審議内容

- 人文学・社会科学の振興に向け、人文学・社会科学が主体の「共創型」プロジェクト研究の推進や、研究DXに向けた基盤開発・整備、我が国の人文学・社会科学の研究動向に係るモニタリング指標の開発等について、調査・審議を行い、令和5年8月に「人文学・社会科学の振興に向けた当面の施策の方向性について」を取りまとめた。
- 人文学・社会科学の振興に向け、人文学・社会科学の現代的役割、新たな「知」の創出に向けた分野研究の深化及び異分野との連携・融合、新たな「知」の創出を支える研究基盤、研究成果の可視化・モニタリング、研究成果の国内外への発信の強化について、調査・審議を行い、令和6年8月に「今後の人文学・社会科学の振興に向けた推進方策について（中間まとめ）」を、令和7年1月に「今後の人文学・社会科学の振興に向けた推進方策について（審議のまとめ）」をとりまとめた。

引き続き検討すべき論点又は今後の方向性等

- 第12期の審議を踏まえ、特に以下3点について、引き続き検討を行う。
 - 人文学・社会科学における研究基盤の在り方や、その活用方策・必要な支援について
 - 人文学・社会科学における共同利用・共同研究体制の成果、現状の課題、今後期待される機能や役割について
 - 人文学・社会科学の研究成果の可視化とモニタリングについて